

東峰村における
食品アクセス現状・課題調査等業務委託

[アンケート調査結果(概要版)]

東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <概要>

1

- 下記の5つのアンケート調査を行った。
- 高齢者、子育て世帯、若年層を対象者として抽出し、村民にアンケートを行った。また、村内に働きに来る人々の実態等を把握するため、役場職員、村内企業従業員を対象に調査を行った。

高齢者向けアンケート			
対象者	村内在住の65歳以上の高齢者		
調査方法	集落支援員による聞き取り調査		
回収票数	112票	対象者数	—
子育て世帯向けアンケート			
対象者	村内在住の保育園児～高校生の保護者		
調査方法	WEBアンケート		
回収票数	54票(回収率58.7%)	対象者数	92人
若年層向けアンケート			
対象者	東峰学園4年生～9年生、村内在住の高校生		
調査方法	WEBアンケート		
回収票数	90票(回収率80.4%)	対象者数	112人
企業向けアンケート			
対象者	学校、保育園、他村内企業13社		
調査方法	WEBアンケート		
回収票数	66票	対象者数	—
役場職員向けアンケート			
対象者	東峰村役場職員		
調査方法	WEBアンケート		
回収票数	78票	対象者数	—

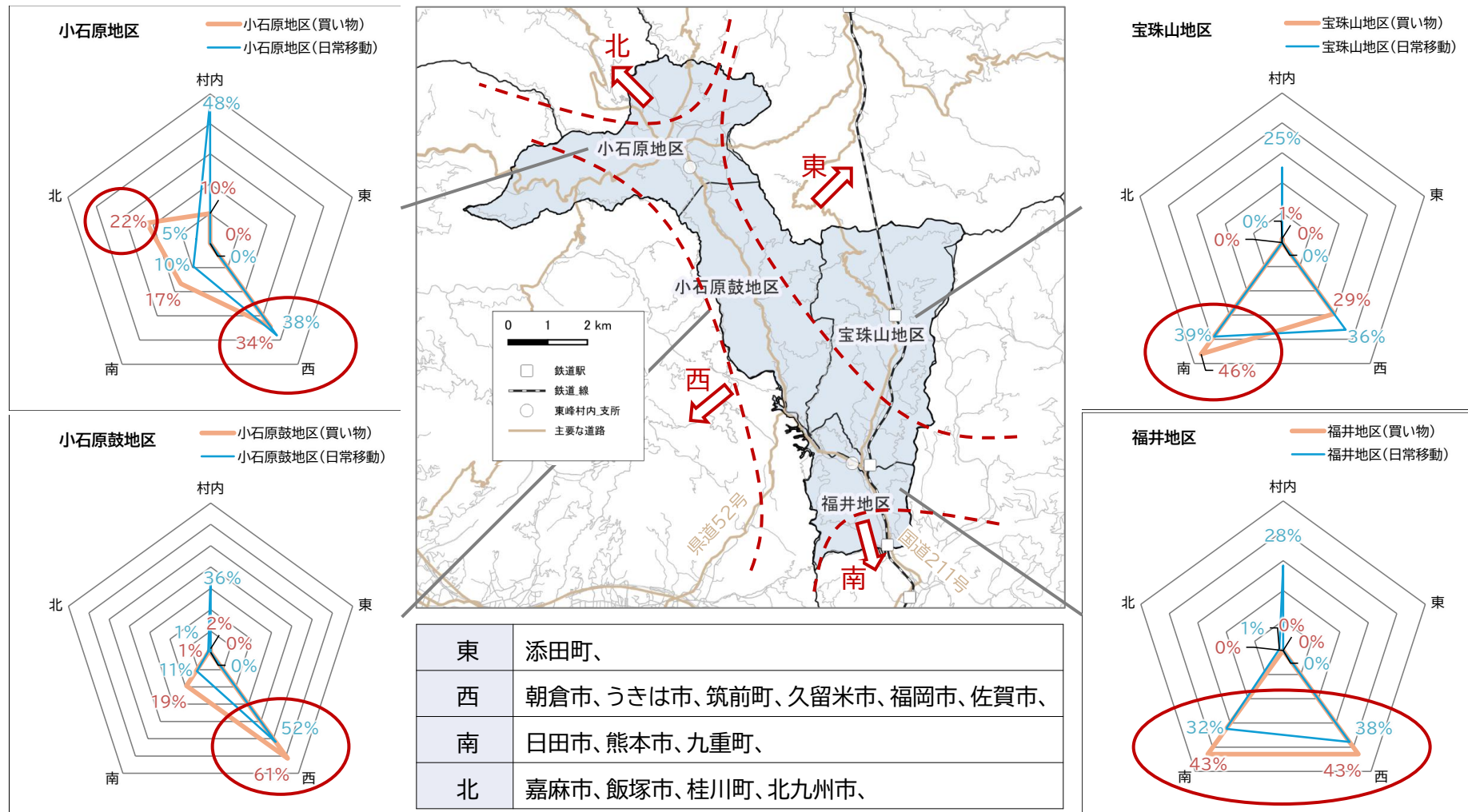
東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <移動の状況について>

2

買い物、日常生活どちらも**西・南方面への移動が多く**、日田市・朝倉市に通じる**国道211号、県道52号に交通量が集中**している可能性が高い。

- 買い物や日常生活での移動先として、旧宝珠山村では、南方面(日田市など)への移動が多く、旧小石原村では西方面(朝倉市など)への移動が多い傾向にあり、**国道211号・県道52号の利用頻度が高い**と考えられる。
- 北方面(嘉麻市など)への移動は、小石原地区住民の買い物目的での移動が中心となっており、東方面(添田町など)への移動は少ない。
- なお、日常生活の移動は、小石原地区で移動の5割近くが村内と最も多くなっており、その他の地区では3割前後となっている。

■買い物とそれ以外の日常生活の移動それぞれの目的地(高齢者、子育て世帯の結果を合算)



※各グラフは、オレンジが買い物目的、青色が日常移動の割合を示す。

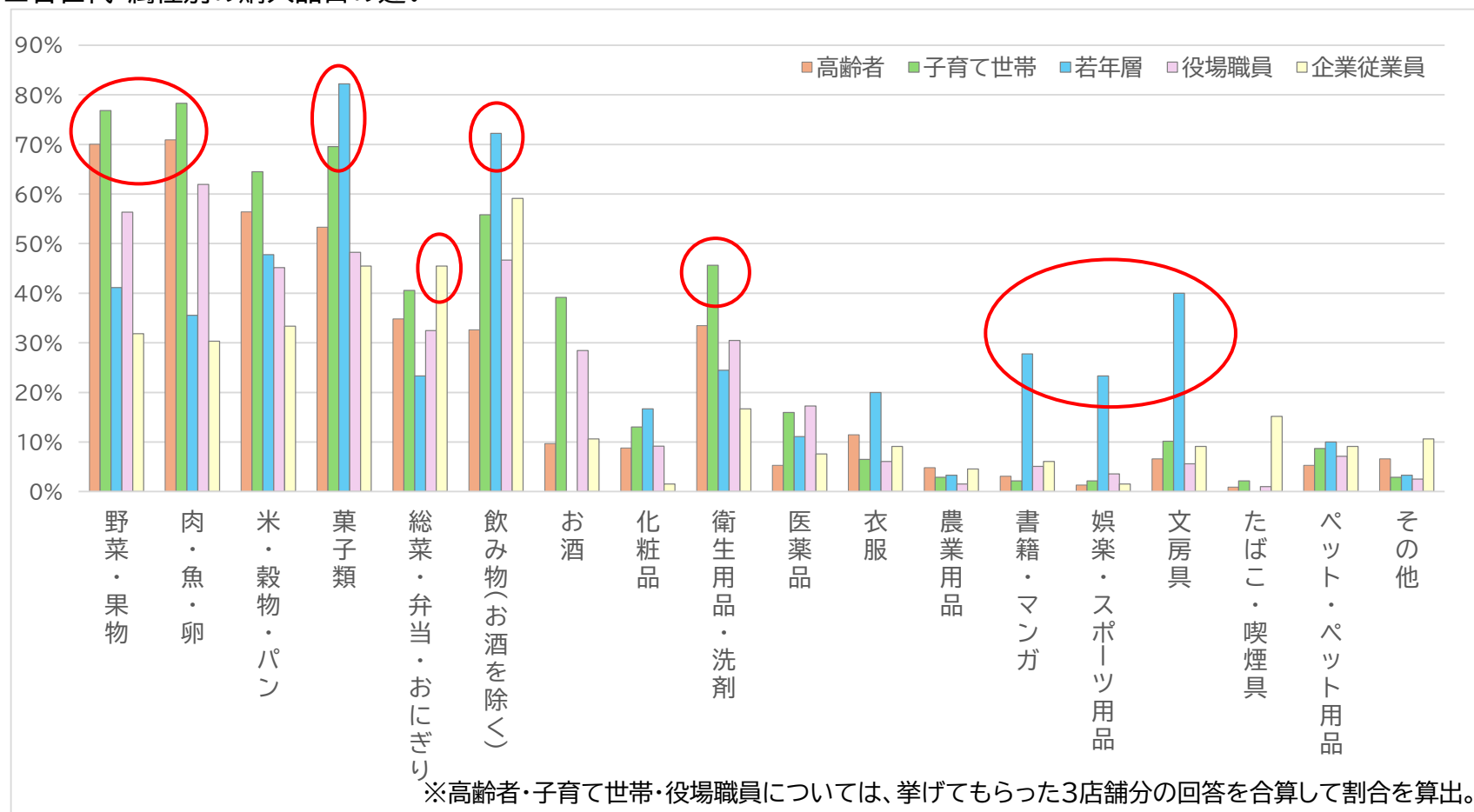
東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <買い物物品目>

3

高齢者・子育て世帯は「生鮮食品、日用品」、若年層は「お菓子、飲み物、勉強・遊び道具」、企業従業員は「すぐに飲食できるもの」の購入が多い。

- 高齢者・子育て世帯は生鮮食品（野菜・果物、肉・魚・卵など）、日用品（衛生用品・洗剤など）の購入割合が高く、役場職員も同様となった。
- 若年層と子育て世帯は「菓子類」の購入割合が高い傾向にある。また、若年層は「飲み物」や「書籍・マンガ」、「娯楽・スポーツ用品」、「文房具」の購入割合が多世代と比較して高い。
- 企業従業員は、「惣菜・弁当・おにぎり」や「飲み物」など購入後すぐに飲食できるものや、「たばこ・喫煙具」の購入割合が高く、日用品（衛生用品・洗剤など）の割合が低い。

■各世代・属性別の購入品目の違い



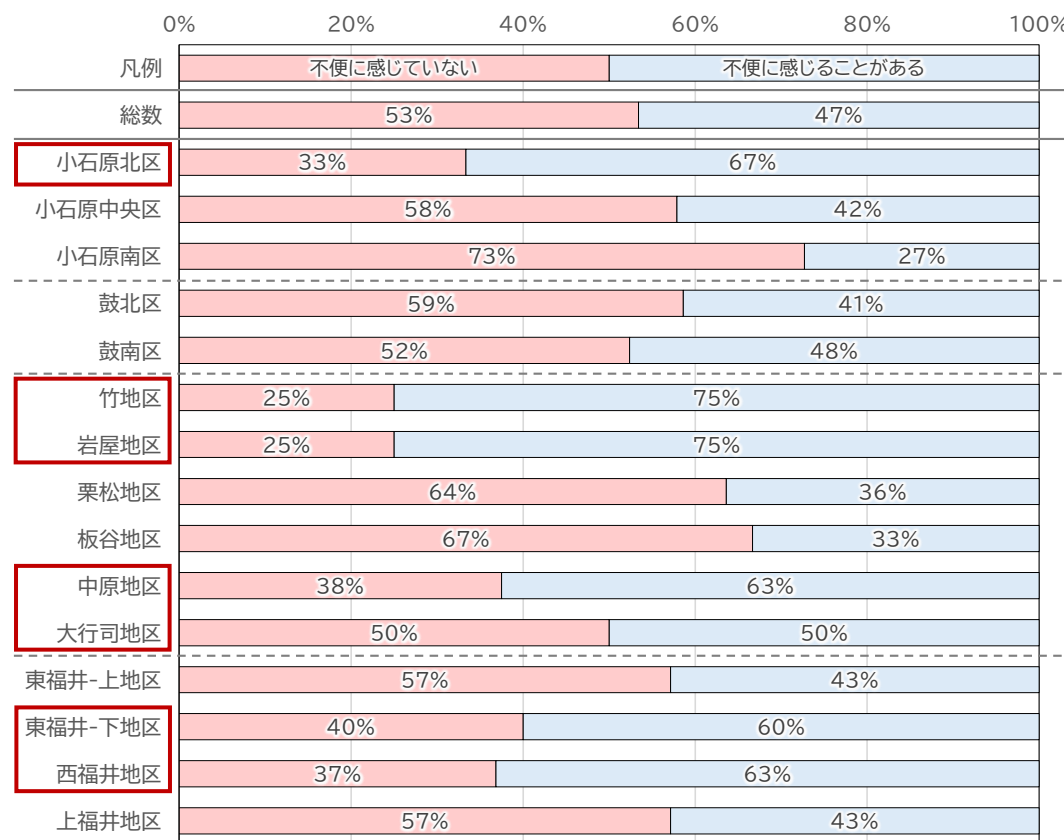
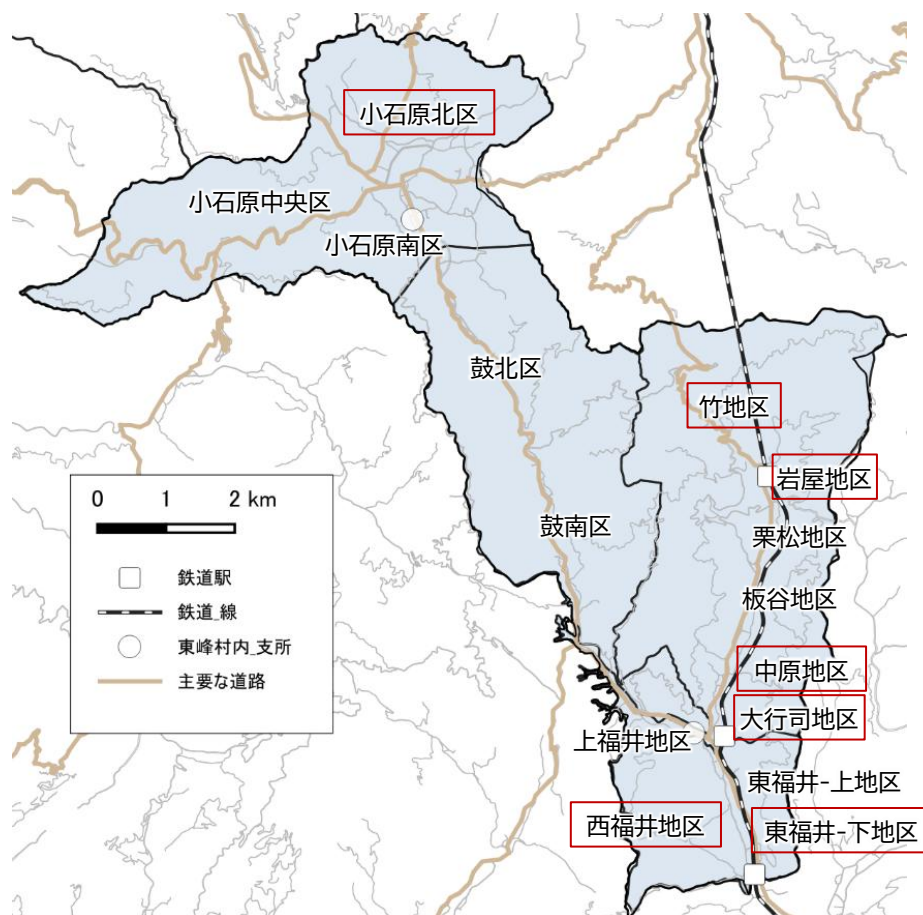
東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <買い物環境の満足度>

4

立地的に奥まっている竹地区や小石原北区のほか、BRT駅のある地区・日田市に近い地区でも不便に感じている人の割合が高い。

- 地区別にみると、BRT駅のある「岩屋地区」、「大行司地区」、「東福井-下地区」のいずれも「不便に感じる割合」が5割以上となった。その反面、公共交通手段の少ない、小石原鼓地区の2地区では不便に感じていない方のほうが多い結果となった。
- 特に、朝倉市・日田市から距離の遠い「竹地区」「岩屋地区」の方が最も不便に感じている割合が高い。
- 最も不便に感じていない方が多かった地区は、道の駅などがある「小石原南区」となっており、不便に感じる人の割合は3割弱となっている。

■ 買い物環境に関して「不便に感じている」割合の地区別比較(高齢者、子育て世帯、役場職員の結果を合算)



※□は、不便に感じている割合が50%以上の地区

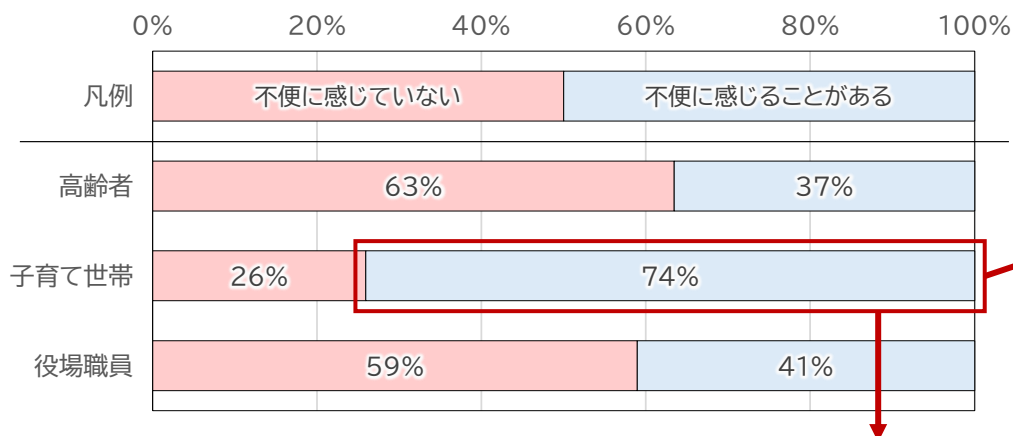
東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <買い物環境の不便さの要因>

5

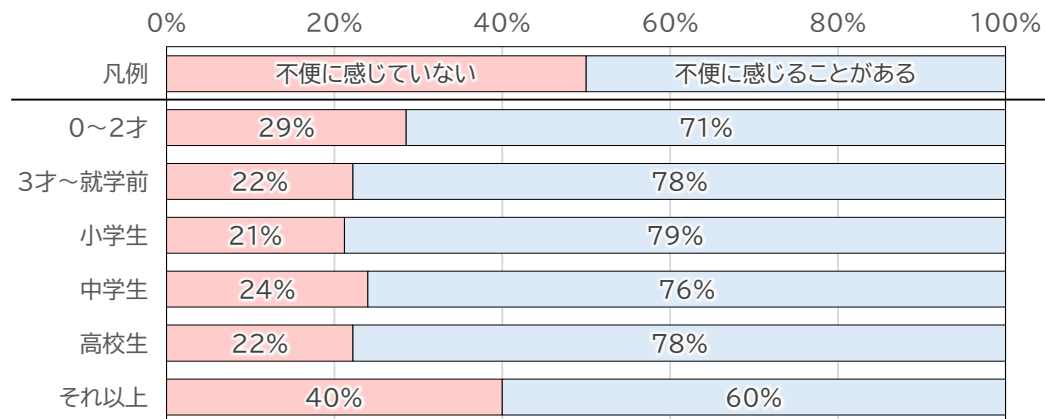
高齢者より子育て世帯で、買い物を不便に感じている方が多く、買い物にかかる”時間”が不便さの要因と考えられる。

- 子育て世帯のほうが高齢者よりも、買い物環境を「不便に感じている」割合が高い(7割以上)。
- 不便に感じている理由のうち、「お店までの距離が遠い」ことが主な理由として挙げられており、子育てする中で買い物に行く時間がないことが不便さの要因となっていると考えられる。自由意見では、開店時間の長い店や少しの買い物に対応できる店を欲する声があった。
- 子どもの年齢別にみると、高校生までの子どもがいる世帯で、子供の年齢によって不便に感じている割合に大きな差はみられなかった。

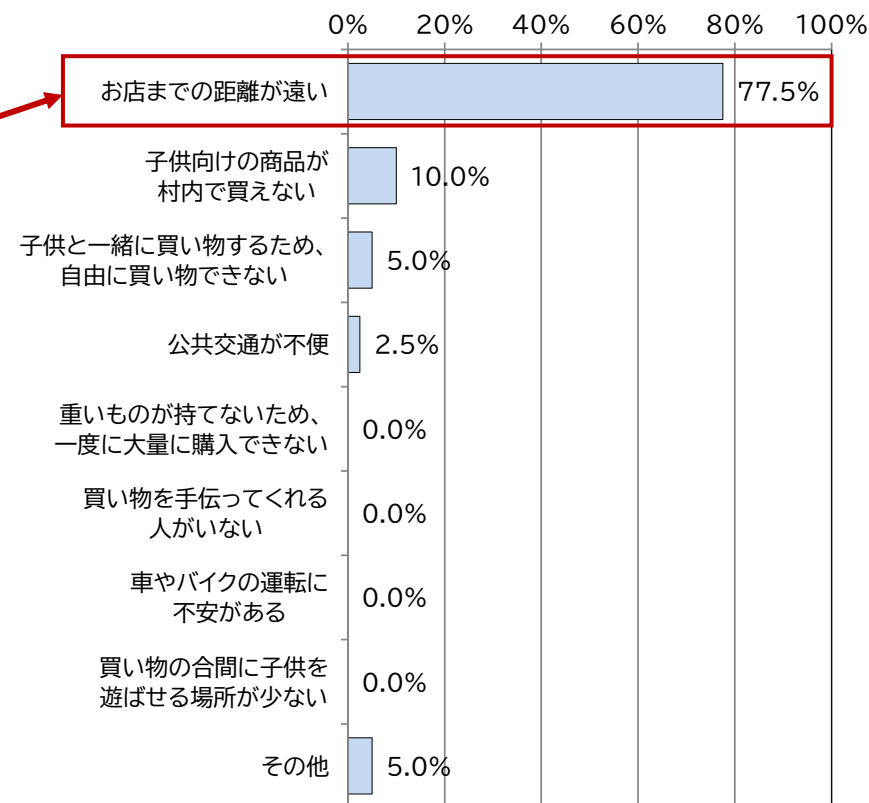
■買い物環境に関する不便に感じている割合の世代別比較



■子どもの年齢による不便に感じている割合の違い(子育て世帯)



■不満に感じている理由(子育て世帯)



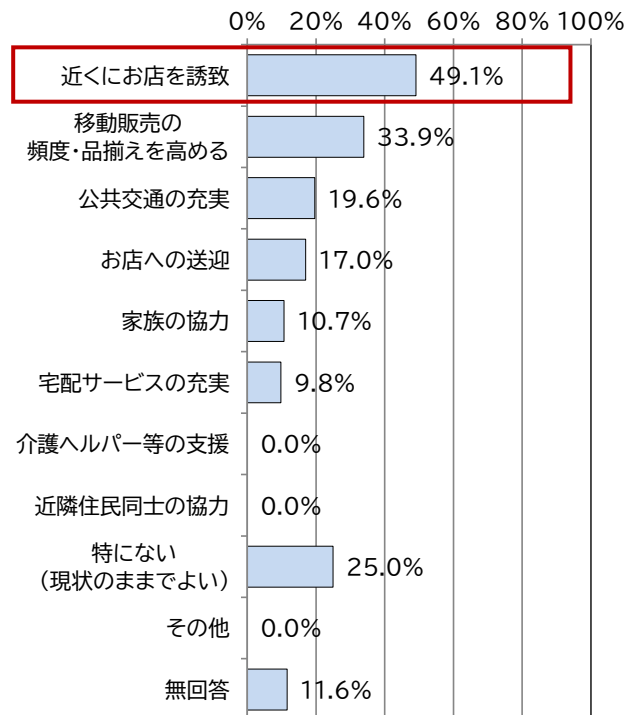
東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <村内にほしい場所・サービス>

6

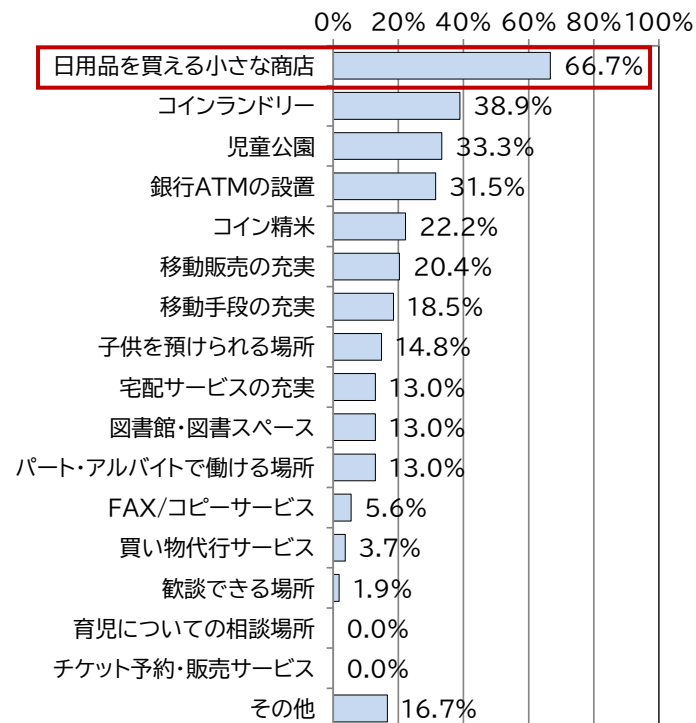
近場で買い物ができる「コンビニ」や「小さな商店」の立地を希望する人が、いずれの年代においても多い。

- いずれの年代でも、近場で買い物が可能な「コンビニ」や「小さな商店」のニーズが高い。
- 高齢者は、「移動販売」や「移動手段の充実」について、改善を求める声が多い。
- 子育て世帯では、「コインランドリー」や「銀行ATM」、「コイン精米」など、生活に必要なサービスを求める声が多い。
- 若年層は、コンビニ、スーパーのほか、「本屋・文房具店」、「百元ショップ」、「駄菓子屋」など、子ども世代が気軽に利用できるお店を求める声が多い。

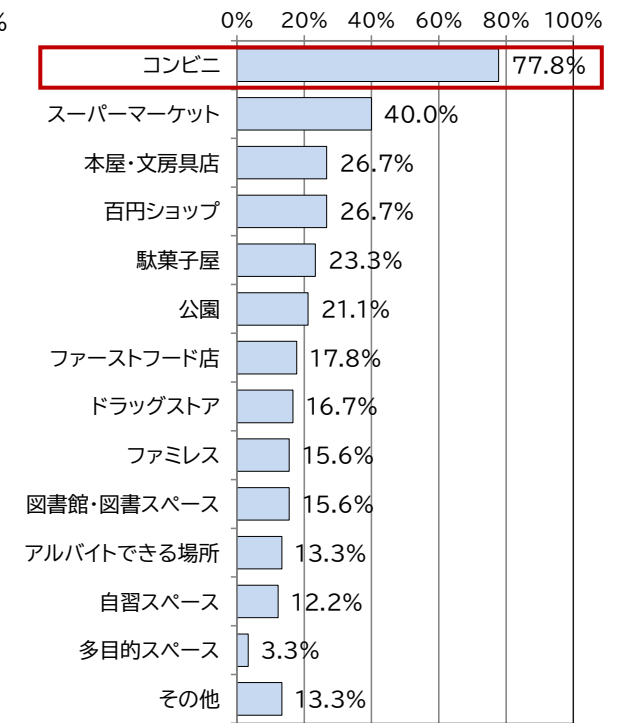
■買い物環境改善に向けて必要なこと(高齢者)



■村内にあるとよいサービス(子育て世帯)



■村内にできてほしいお店・場所(若年層)



東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <自由意見の抜粋>

7

高齢者は「**とうほう百貨店の再開**」、子育て世帯は「**近くのお店**」と「**営業時間**」、若年層は「**自身が利用できるお店**」、企業従業員は「**弁当などの買ってすぐ飲食できるもの**」についての意見が多く挙げられた。

■自由意見の一部抜粋

(高齢者) 「生活環境・買い物環境の改善について」

- 今は不安なし。車の運転ができなくなれば不安になる。
- とうほう百貨店がなくなり困っている。近くに店があるか、送迎をしてもらえたらうれしい。
- とうほう百貨店を早く再開してほしい。それまでの間、移動スーパーが鼓の里にとまってほしい。
- 移動スーパーが自宅の方に来る時(順番が最後)には、欲しい品物が売り切れており買えない。
- 近くにコンビニなどがほしい。

(子育て世帯) 「生活環境・買い物環境の改善について」

- 20時ぐらいまで、開いている店がほしい!
- 移動販売の時間を夕方にしてほしい。迎えの時間に子ども館前でするなど。
- 夕食準備の時に買い忘れた調味料等すぐ近くに買える店があるととても助かる。
- コスモスやドラモリのようなドラッグストアができれば市販医薬品が購入できるし、良いなと思う。ちょっと子供のお昼ご飯を買いに行くでも店が遠いので、コンビニでもできたら嬉しい。
- 急な来客時や子供のお弁当、アイスが食べたくなったとき、何かもう一品作ろうかなという時に近くにあればと不便を感じる。

(若年層) 「村内にあったらよいお店やサービス」

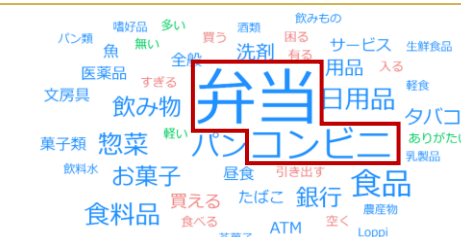
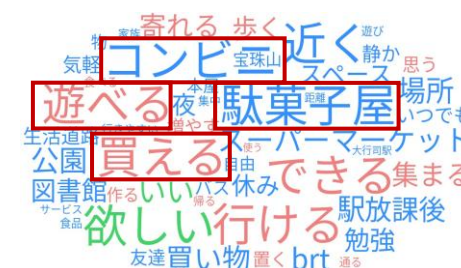
- 家から近いコンビニがほしい。友だちと集まれるカフェみたいな物がほしい。
- 学校の近くに駄菓子屋がほしい、歩いていけるコンビニ、スーパーマーケットがほしい、いずみ館の近くにレストランを作してほしい!
- 日田にお買い物をしに行かなくていいようにスーパーマーケットがほしいです。
- シールとか日頃使えるものがある百円ショップがほしいです。
- 安いお菓子が買える駄菓子屋が欲しい。

(企業従業員) 「村内で買えるようになるとよい商品・サービス」

- とにかく日頃なにも近くで買えない日が多いため、コンビニのような昼食や軽食、急に欲しい医薬品が手に入るとありがたい。
- 洗濯洗剤や衛生用品的なコンビニにあるくらいのモノが買えると良い。時間は夜9時~10時位まで空いてると良い。
- お菓子やデザート、福銀や西銀のATMが欲しい。平日のお金の引き出し送金、入金に困っている。
- コンビニやスーパー等にあるもの全般。

■テキストマイニング結果

※出現頻度が高い単語ほど大きく表示されます。



東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <現状のまとめ>

8

各世代、属性ごとに現状・ニーズが異なっていることから、**各年代・属性のニーズに対応できるお店やサービスが求められる。**

	現状、ニーズ	今後に向けて
高齢者	- 生鮮食品、日用品の購入が多い。 - 近場のお店の立地を求める声が多く、「とうほう百貨店の再開」を希望している方が多い。 - そのほか、「移動販売」や「移動手段の充実」について、改善を求める声が多い。	移動スーパー等の既存のサービスで不足する商品などを補うためのお店・サービスが必要。
子育て世帯	- 生鮮食品、日用品の購入が多い。 - 約7割が買い物環境を不便に感じている。お店までの距離が遠いことが主な要因。 「日用品を買える小さなお店」の希望が高いほか、「コインランドリー」など、生活に必要なサービスを求める声も多い。 - 買い物できる時間が仕事帰りや子どもの送迎タイミング。	ちょっとした買い物で利用できる近場のお店に需要がある。 買い物にかけられる時間に制約があるため、それを解決するお店・サービスが必要。
子ども	「お菓子/飲み物」や「勉強道具/遊び道具」の購入が多い。 - 東峰村に「住み続けたい/いずれ帰ってきたい」と答えたのは約半数。 - コンビニや百元ショップ等、気軽に立ち寄れるお店の村内立地に期待する声が多い。	子どもたち自身が「お客さん」になれるお店に需要があることから、 買い物支援よりも、気軽に利用できる“環境”づくりが必要。
働き手	- うきは市、朝倉市からの通勤者が多い。 - 買ってすぐ飲食が可能な「弁当」や「飲み物」の購入が多い。 - 弁当などを村内で購入できる環境づくりに期待する声が多い。	外出中だからこそ、購入後すぐに食べられる/使える商品に需要があり、 コンビニのようなお店の利用が多い層と言える。

東峰村お買い物状況に関するアンケート調査 <ターゲットとサービスの対応>

9

高齢者は既存サービスが比較的充実。子育て世帯、子ども、働き手の各ニーズを踏まえ、「コンビニ」のような機能が求められるのではないか。

ターゲット	高齢者	子育て世帯	子ども	働き手
ニーズの要点	移動の手段	時短・夜間	自分で買う	即食
買い物に関する 対応サービス	既存 買い物ツアー 既存 生活協同組合 既存 移動販売 (夜間営業・買い忘れ) (お菓子・勉強道具) (お弁当・飲み物) 新規 コンビニ (or ミニスーパー) コンビニエンスストアの定義 <日本標準産業分類(総務省)> 主として飲料食品を中心とした各種最寄り品をセルフサービス方式で小売する事業所で、店舗規模が小さく、終日又は長時間営業を行う事業所 <商業統計における業態分類(経済産業省)> 「57 飲食料品小売業」に格付けされた事業所のうち、セルフサービス方式を採用していて、売場面積が30㎡以上250㎡未満で、営業時間が14時間以上の事業所 ミニスーパーの定義 一般的なスーパーマーケットより小さなタイプの店舗で、地域に密着したスーパーのこと。一般に売り場面積は500㎡以下。コンビニエンスストアで取り扱われている商品の数や種類が多岐にわたるのに比べると、ミニスーパーは、生鮮食品や飲料、日用品などに限られてくるものの、生活に便利な店として、都心部に展開されてきた。なお、国の分類がないため、ミニスーパーに特化した公的な統計資料が存在しない。			
上記に付帯希望 のサービス・機能	送迎サービス 移動販売の充実	コインランドリー 医薬品の取扱	百円ショップ 集えるカフェ	銀行ATM 医薬品の取扱